

省
道
交
河
森
青
国

180人が多様な考え方を学ぶ

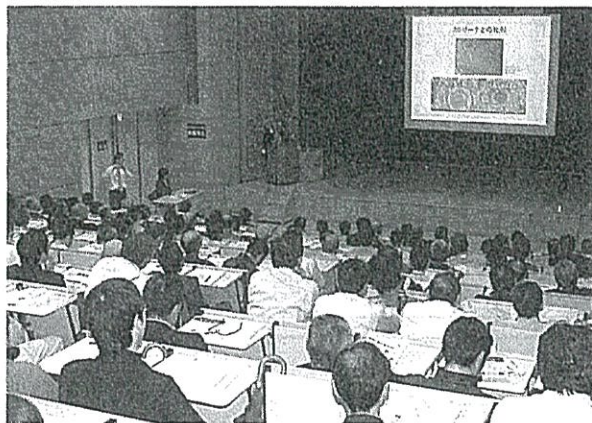
13年度防災講演会開く

国土交通省青森河川国道事務所は18日、青森市中央3丁目のアピオあおもりで13年度防災講演会を開催し、県内建設関係企業らから参加した約180人が、防災についての多様な考え方を学んだ。

開会に先立ち、あいさつに立った青森河川国道事務所の盛谷明弘所長は、「地球温暖化進行の影響などで大雨などによる災害が増加傾向にある。これまでのハード・ソフト対策と違う視点から防災・減災対策を考える良い機会としていただきたい」と開催趣旨を説明した。

引き続き講演に移り、富士常葉大学名誉教授で山口大学時間学研究所客員教授の竹林征三氏が「災害の世紀・防災を考える」、宮城県地名研究会の太宰幸子会長が「地名から知る自然災害への警鐘」と題してそれぞれ熱弁を振るった。

竹林氏は、自身の専門である「風土工学」の視点から、本県が持つ風土や歴史を考察し、災害との関連性について講演。その中で、「一番環境にやさしい地域づくりとは堤防を造ること。一番の環境破壊は自然災害だ」と述べ、「環境」と「防災」は密接な関係にある会、互いに補完し合うことで健全な体系を構築できる」と解説した。



約180人が参加した講演会、約3時間半にわたって行われた講演に、参加者は興味深そうに耳を傾けていた。